

貸借対照表 (普通会計)

大阪市が道路、建物、お金などの「資産」をどれくらい持っている、その「資産」を手に入れるために、どうやってお金のやりくりをしたか(将来世代の負担となる「負債」と過去・現代がすでに負担した「純資産」)を表にまとめたものです。

左の「資産」と右の「負債+純資産」の額は同額で釣り合い、バランスが取れた状態になるので、「バランスシート」とも呼ばれています。



市民1人当たり貸借対照表

貸借対照表を市民1人当たりへ換算すると、右のようになります。

資産、負債、純資産の全てが昨年度から減少しています。

【資産】
(25)321万円
318万円

【負債】
(25)124万円
123万円

【純資産】
(25)197万円
195万円

(住民基本台帳人口(3月31日): 25年度2,664,217人・26年度2,672,776人)

道路・公営住宅・学校・公園など、行政サービスを提供するための資産(土地・建物など)



行政サービスの提供という役割を終え、売却できる資産

地下鉄事業や阪神高速道路整備に対する出資金など



関西国際空港土地保有(株)に対する貸付金など



特定の目的のために蓄えている基金など

26年度末資金及び財政調整基金、減債基金(公債償還基金)

市税や貸付金・使用料などで収入されていないもののうち、26年度に発生したもの

平成27年3月31日 (平成26年度末)現在

【資産の部】	(25)8兆5,630億円 8兆5,034億円								
1 公共資産	(25)6兆7,540億円 6兆6,986億円								
(1)有形固定資産	(25)6兆6,486億円 6兆5,550億円								
<table border="1"> <tr><td>道路</td><td>1兆9,128億円</td></tr> <tr><td>公営住宅</td><td>9,760億円</td></tr> <tr><td>学校</td><td>7,675億円</td></tr> <tr><td>公園</td><td>4,329億円 など</td></tr> </table>	道路	1兆9,128億円	公営住宅	9,760億円	学校	7,675億円	公園	4,329億円 など	
道路	1兆9,128億円								
公営住宅	9,760億円								
学校	7,675億円								
公園	4,329億円 など								
(2)売却可能資産	(25)1,054億円 1,436億円								
2 投資等	(25)1兆1,155億円 1兆1,000億円								
(1)投資及び出資金	(25)8,459億円 8,522億円								
(2)貸付金等	(25)2,183億円 2,029億円								
(3)基金等	(25)513億円 449億円								
3 流動資産	(25)6,935億円 7,048億円								
(1)現金預金	(25)6,888億円 7,001億円								
(2)未収金	(25)47億円 47億円								
<table border="1"> <tr><td>財政調整基金</td><td>1,618億円</td></tr> <tr><td>減債基金</td><td>5,330億円</td></tr> <tr><td>年度末資金</td><td>53億円</td></tr> </table>	財政調整基金	1,618億円	減債基金	5,330億円	年度末資金	53億円			
財政調整基金	1,618億円								
減債基金	5,330億円								
年度末資金	53億円								
資産合計	(25)8兆5,630億円 8兆5,034億円								

【負債の部】	(25)3兆3,216億円 3兆2,851億円
1 固定負債	(25)3兆1,022億円 3兆194億円
(1)地方債 ^(*1)	(25)2兆8,781億円 2兆7,676億円
(2)長期未払金 ^(*2)	(25)8億円 516億円
(3)退職手当引当金	(25)1,630億円 1,548億円
(4)損失補償等引当金	(25)427億円 374億円
(5)他会計借入金	(25)176億円 80億円
2 流動負債	(25)2,194億円 2,657億円
(1)翌年度償還予定地方債 ^(*1)	(25)1,880億円 2,243億円
(2)未払金 ^(*2)	(25)2億円 65億円
(3)翌年度支払予定退職手当	(25)198億円 233億円
(4)賞与引当金	(25)114億円 116億円
【純資産の部】	(25)5兆2,414億円 5兆2,183億円
負債・純資産合計	(25)8兆5,630億円 8兆5,034億円

28年度以降に支払うもの

28年度以降に返済しなければならない借入金

28年度以降の支払いが確定している未払金

26年度末に全職員が退職した場合に支払う退職金(27年度支払予定分除く)

3セク等に対する損失補償の負担見込額

水道事業会計からの借入金

27年度中に支払うもの

27年度に返済しなければならない借入金

27年度の支払いが確定している未払金

27年度退職予定の職員への退職金

27年度に支給するボーナスのうち26年度(12月~3月)分

すでに負担したお金(資産-負債)

【ポイント】

8兆円以上の資産を保有していますが、全体の約8割は道路・公営住宅・学校・公園など行政サービスを提供するために必要な資産(有形固定資産)です。
昨年度に比べ、資産総額は596億円減少(25)8兆5,630億円→(26)8兆5,034億円)していますが、主に公共資産が時の経過とともに価値が減少(減価償却)したためです。

【ポイント】

負債総額は、弁天町駅前開発土地信託事業(オーク200)の和解金の確定により未払金(*2)が573億円増加したものの、地方債残高(*1)が新たな借入金の抑制などで742億円減少したことなどにより、365億円減少(25)3兆3,216億円→(26)3兆2,851億円)しており、将来世代の負担が軽減されています。